

乳頭山（烏帽子岳）・太平山

毎日新聞旅行

13～15日



乳頭山は烏帽子岳とも呼ばれる。南東方面から見ると乳首に見えるところからこの名前が付いたのであろうが、どこから見たら烏帽子に見えるかは、この日の曇天では見当がつかなかった。

今回の天気予報は、台風 8 号が去ったあとでピーカンのはずであった。しかし行ってみれば、3 日間とも雨具を必要とした。まあ大した雨ではなかったが、晴れ登山に飢えている身としては恨めしい。

乳頭山(1478m)には、秋田駒ヶ岳 8 号目の登山口(1300m)から入山した。途中の笹森山が 1541m であるので、降りの方が長い感じである。草原状のなだらかな山であるので高山植物も多く、本来は私の好む山であるのであるが、今回は乗り切れ



乳頭山山頂

なかった。天敵の木道のためにひどい目があった。笹森山から千沼が原への降りの木道は、それなりに気が配られていて切り込みなどがたくさん入っているのだが、それでも3回滑って転んだ。2回目では手のひらを擦りむいて結構血が出た。夜になってもホテルのシーツに赤い血がついてしまって、翌日ホテルの人は驚



木道脇のハクサンチドリ

いたろうな。“あの部屋の客は男だったはずなのに、世の中恐ろしいね”なんて。それ以外にも2回、合計5回木道に滑って転んだ。降り道はもっとひどかった。もともとがグチャグチャなのである。黒湯(800m)まで降るのであるから悪戦苦闘である。周りのおばさんたちは豊富な高山植物に大喜びであったが、ちっとも楽しくなかった。乳頭山という山の名前からもっと楽しそうなことを期待したのであるが。

翌日は太平山(1170m)である。登って降りて風呂に入って、その日のうちに東京へ帰るのであるから、楽勝のコースであると予想していた。ガイドさんも乳頭山に比べれば何ということありませんと言っていたが、まあ厳しくはないが何ということはある。朝の4時半にはバスで発って、5時17分には登山開始。途中秋田杉の樹林帯を通るが、鈍感な私には植林と自然林との区別もつかないが、あまり丁寧に管理されていないということだけはわかる。ブナなど結構他の木も混ざって伸びている。仲良く寄り添ったお地蔵さんもいた。太平山は頂上直下まで林に包まれた山である。3時間では頂上に着かなかった。



秋田杉の森



仲の良いお地蔵さん

山頂には三吉神社がある。きちんとした小屋が有り番人までいる。まあ悪いがここに泊まる客はそれほど多くはいないであろう。でもこんなに立派な小屋を構えているということは、氏子の人たちが敬虔に守っているということなのであろう。参考のためにネットで当たってみたら <http://www.miyoshi.or.jp/> 結構由緒ある神社であった。古来より勝利成功・事業繁栄の靈験高い守護神として崇敬を受けているということである。狐や猿や偉かった人を祀っているということではなさそうである。

初日の集合場所に行った時には知った顔はいないかなと思っただが、山登りが始まってみるといっぱいいたことを知る。まずはIズミさんがいる。武奈が岳で出会った元M重工の技術者がいる。あの晩私が酔ってさんざ

ん歌ったことを覚えていた。先週の大滝山で、私がノルウェー人のアベックのお姉ちゃんに話しかけたら、我々のグループのバア様の見事な英語に話を引き取られてしまったことを覚えていたジイサマもいたりした。すっかり忘れていても小さなエピソードで覚えているものだ。その他よく見るバアサマも何人かいた。

先週の大滝山では降りでストックを使うことによって何とか持ちこたえたが、今回は全くいけなかった。降りでは前の人が見えなくなってしまうほど離されてしまうことが度々あった。左足かかとのあたりに痛みがあって安定が悪く、半歩ずつしか足を前に出すことができないので遅くなってしまふ。山登りも終わりにしなければいけないとなると、ほんとにやることなくってしまうね。

